

住吉っせん



禱
祓
除

縁
發

住吉大社
神代記

住吉大社字司 道弘 謹書



禱祓除縁発

はらひをいのることのもと『住吉大社神代記』

神道は祓に始まり祓に終ると云われています。

祭に奉仕する者、又参加する者は必ず先づ「おはらひ」を受けなければならぬ重儀であり、清浄明直な心で祭典が始まります。古事記、日本書紀に住吉大神は禊祓の御神縁により御出現になったとされている。

「おはらひ」の御神徳により広く普くご崇敬を頂いています。

今日、疫病蔓延の中、そのご加護を願いつつ個人々々が医療崩壊を防ぐべく、人との接触を控え、感染予防を徹底し、我慢と忍耐でこの困難を克服しなければなりません。

神社では事態の終息に日夜熱禱を捧げているところであります。



住吉大社宮司

高井道弘

後鳥羽院 若松御所八百年記念祭

令和3年(2021) 2月7日 止呂支比賣命神社 (若松御所跡)

後鳥羽院が承久3年(1221)住吉の若松御所へ入御せられて800年になるのを記念し、若松御所跡のある止呂支比賣命神社と合同祭典を執行しました。

後鳥羽院(第82代後鳥羽天皇・上皇の追号)は平安末期から鎌倉初期にかけての天皇・上皇です。『新古今和歌集』の編纂や、承久の乱によって隠岐に配流されたことも知られますが、ご在位中や院政期の熊野詣では、住吉においてたびたび歌会を催されています。

じつに波乱のご生涯でした。平家に擁立された安徳天皇(異母兄)が西国へ落ち延びられた際、後白河法皇の命によって、わずか4歳で神器のないまま即位されます。後白河法皇による院政のもと、ご在位中は平家の滅亡や鎌倉幕府の成立などがあり、建久9年(1198)19歳で讓位、「治天の君」として院政を敷かれましたが、後に鎌倉幕府の北条氏と対立を深め、承久の乱に発展しました。

文武に優れた多才な人物で、蹴鞠、笠懸(騎射)、相撲、琵琶、刀剣の製作などを好まれ、特に和歌には非凡な才能を発揮され、中世を代表する歌人として後世に大きな影響を与えられました。また、ご生涯の熊野詣は28回を数え、そのたびに住吉にて歌会などを催されました。建仁元年(1201)10月6日の住吉参詣では、

斯くてなほ変はらずまもれ世々をへて此の道まもる住吉の神

(今もご守護くださいますように、これからも変わらぬにお守りください。時代を超えて和歌の道をご守護しつづける住吉の神よ。)

と詠まれ、絶大なるご信仰を寄せられたのでした。

承久3年(1221)2月、後鳥羽上皇は熊野詣と称して住吉



後鳥羽院 住吉若松御所跡 (後鳥羽天皇行宮址)





水無瀬神宮 水無瀬忠成宮司



斎主 止止呂支比賣命神社 樹光治宮司

へ御幸されました。この時、住吉社神主の津守経国は、弟の津守国継（樹氏の祖）とはかつて、後鳥羽上皇を迎えるための若松御所を造営、2月4日に入御があり、しばらくご滞在になられました。詳細は不明ですが、これは承久の乱の直前のことで、当地で倒幕の兵を募るためであったと伝えられます。

3ヶ月後の5月14日、後鳥羽上皇は朝廷の復権および討幕のために挙兵されましたが、北条義時・泰時の率いる幕府軍に敗北となりました。結果、7月には後鳥羽上皇は隠岐島へ、順徳上皇（後鳥羽院第三皇子）は佐渡島へ、土御門上皇（後鳥羽院第一皇子）は土佐国へ配流され、孫の仲恭天皇（順徳院第四皇子）は廃位となりました。これ以降、朝廷の権力は制限され、幕府主導による武家中心の世へと移り変わってゆきます。

後鳥羽法皇（配流に際して出家）は、配流先の隠岐島においても数多くの歌を詠まれましたが、そのなかには、住吉の地を懐かしんで詠まれた歌があります。

同じ世にまた住の江の月や見む今日こそよその隠岐つ島守り

（同じこの世でもう一度あの住ノ江の澄んだ月を眺めたいものだ。今は遠くはなれて、隠岐の島守りとなった身ではあるが。）

都へのご帰還が叶わないまま、延応元年（1239）2月20日、配流先の隠岐島にて崩御されました。その後、仁治3年（1242）「後鳥羽院」の追号が贈られています。

後鳥羽院ゆかりの若松御所跡は、住吉大社の旧撰社であった止止呂支比賣命神社（大阪市住吉区沢之町1丁目）の境内にあり、現地には「後鳥羽天皇行宮址」碑が建てられています。今回、後鳥羽院の若松御所800年を記念し、2月7日、同神社の樹光治宮司と当社が後鳥羽院若松御所八百年記念祭を合同で斎行しました。

祭典には水無瀬神宮の水無瀬忠成宮司、住吉大社の高井道弘宮司、同神社氏子総代が参列のもと、顕彰碑の前庭に御霊をお招きし、樹宮司が祭詞を奏上、当社神職らが御製3首の披講と神楽熊野舞を奉仕して御霊をお慰め申し上げました。

齋館半解体修理工事を終えて

株式会社瀧川寺社建築 代表取締役

瀧川 伸

このたび、住吉大社の南手水舎、五月殿の修理工事に続いて、齋館（登録文化財）の半解体修理工事に携わることが出来ましたこと、光栄に思います。

齋館は、大正4年（1915）に現在の神館が造営されるまでは、神館として使われておりました。現在の神館の北東に位置し、その南東隅は蓮池に接しています。

建立年代は棟札により文政11年（1828）と確認され、大正13年（1924）に改修された記録があります。

構造形式は平屋建、入母屋造、本瓦葺、背面に向拝玄関（大正期）が付いています。規模は桁行13・02メートル（43・0尺）梁行10・20メートル（33・7尺）の建物で、近年北面、特に北西の隅の軒回りの垂下が著しく、補強柱で支持してお



りました。

江戸後期から近代にかけて、軒を支える構造部材の簡略化が主流となり、そのことが原因で瓦の長期荷重を支えきれず、軒が大きく波打つ現象がおきるのもこの時代の特徴ともいえます。

今回の修理では、工所用仮設覆屋根を構築し、屋根瓦、小屋組、軒回り化粧垂木と床組までを解体、主要構造軸部材を残したままジャッキアップする半解体修理を行いました。

軸部・基礎回りの破損の大きかった北西面は解体し、建物本体を側通り基礎回りの布基礎による補強を施した後、構造部材の安定を図るため、すべての軸部材の建て起こしを行って、主要構造部をガッチリと再構築いたしました。



この建物は天井上の桁、梁の組手が当初から水平面の剛性に弱点が見られ、主要構造部の傾斜の原因と考えられました。

今回の修理では、この桁位置での水平構面をガツチリと構築するため、各部屋に田の字型にフレームを組み、筋違金物で補強を施しました。



軒回りの修理は、解体の際に実測したデータと部材に残された痕跡を頼りに、弊社工場にて実物大の図面（原寸図）を描きました。
先人の設計意図を読み取って再構築するため、構成部材の再検討を行い、曲線部材の型板を製作、部材加工の準備をします。

軒先の化粧垂木は、桁より奥には伸びておらず、構造的に脆弱であったため、軒先化粧垂木の組上げには仮に茅葺支持部材を置いた後、補強の為に桔木を重点的に施し、深い軒先の荷重を支える構造としました。





屋根瓦を葺くに当たっては、当初より残る瓦を東面の蓮池からよく見える妻面に配置し、新しい補足瓦はその他の面に葺き上げました。

昨年1月から16ヶ月に及んだ工事も5月19日に竣功奉告祭を迎えることが出来ました。

世界中がコロナ禍で動揺する中、ブレることなくこの工事に魂を打ち込める機会を与えてくださった住吉大社の神様に心より感謝申し上げます、今後も住吉さんの境内建物の維持管理に貢献できる事を願うばかりです。



齋館 外観

齋館 北面

南朝の仮皇居

住吉行宮跡 国指定史跡 標柱の建立



南北朝時代の仮皇居であった住吉行宮跡を案内標示するため、長居公園通の脇に標柱が建立されました。

住吉行宮跡（住吉区墨江2丁目7番20号）は、住吉大社から南へ約200メートル、表通りから住宅街へ入り込んだ二画に位置していましたので、現地を訪問するにも分かりづらく、地域住民でも存在を知らない方も多く、案内標示の設置が求められていました。去る平成30年に後村上天皇八百年祭が同所で執行されたのを契機に、公益財団法人住吉名勝保存会（高野伸生理理事長）によって実現化となり、ついに2月10日に建立となりました。

なお、4月6日の正印殿祭（住吉行宮跡）には、「楠公さん」大河ドラマ誘致協議会を代表して、高石市の阪口伸六市長、河内長野市の島田智明市長らが参列し、南朝方の顕彰事業や取り組みについての意見交換を実施しました。



住吉行宮跡を案内する標柱

真言律宗総本山 西大寺 管長就任参拝

真言律宗管長・総本山西大寺長老に就任された
松村隆誉大僧正の表敬訪問がありました。

西大寺（奈良市西大寺芝町）は南都七大寺の一つにも数えられ、奈良時代の天平神護元年（765）鎮護国家のために創建された大寺院です。

松村隆誉師は住吉区出身、莊嚴浄土寺（住吉区帝塚山東5丁目）の住職となり、大阪真言青年会、摂津国大阪市霊場会会長、真言律宗宗務長、西大寺執事長を歴任の後、今回、西大寺の第72世長老に、真言律宗の第9代管長にご就任となりました。去る1月15日の晋山式に臨まれて後、2月5日、特に住吉大社への就任挨拶、正式参拝を行なわれました。

鎌倉時代、西大寺の中興の祖と仰がれる叡尊上人（1201～1290）は住吉にもたびたび来訪され、住吉の莊嚴浄土寺を根本道場として、戒律の復興、民衆の教化、蒙古襲来の調伏修法などを行ないました。その高弟・性瑜は津守氏の出身（住吉神主津守経国の子で、西大寺塔頭の宝生護国院を開いています。同じく、室町時代の住職・忍照（津守氏）は西大寺第24世長老に、江戸時代の住職・栄誉（津守氏）は第44世に、高算（住吉社家の神奴氏出身）は第52世にと歴代の長老を住吉から輩出しています。

なお、松村師の自坊は、住吉大社と縁深い莊嚴浄土寺です。莊嚴浄土寺は白河院の勅願によって、応徳元年（1084）住吉神主の津守国基が建立しました。建立時には紀州和歌浦から青石を運びこみ造成したと伝えられます。以後、住吉神宮寺、津守寺（両寺は明治初年に廃絶）とともに住吉の三大寺院として並び称されました。南北朝時代、後村上天皇は当寺において後醍醐天皇の追善法要を修せられるなど、住吉の歴史を伝える古刹として親しまれています。





真言律宗総本山 西大寺



住吉 荘厳浄土寺

奉納 令和2年12月15日

津守好子旧蔵御紋章入御木盃 奉納

奉納 松本久美子様（京都府木津川市）

明治時代の宮中女官・津守好子^{つよまもりよしこ}の遺品で、住吉ゆかりの旧蔵品が、松本久美子様のご篤志により住吉大社へ奉納されました。

津守好子（1864～1918）は住吉神主・第74代津守国美^{くによし}の令嬢で、明治維新の後、宮中女官・権掌侍^{ごんのしやうじ}として出仕、若菜局^{わかにやうぼ}と称された女性です（※本誌第29号4～5頁にも関連記事あり）。

明治天皇の崩御の後、昭憲皇太后宮に出仕しましたが、大正3年、昭憲皇太后の崩御の後に宮中退下となりました。その際に、下賜された御木盃になります。大正期の住吉大社宮司であった津守国米^{くになが}（妹婿）の筆で箱書きされ、菊花紋と桐紋の袱紗に包まれています。

なお、津守好子は住吉に帰郷の後、住吉区上住吉にあった別邸で隠棲しましたが、晩年の大正6年5月8日には、当時の皇太子殿下（後の昭和天皇）の住吉行啓をお出迎えし、神館御座所にて宮司津守国米と共に拝謁しています。



権掌侍 津守好子

奉納 令和3年2月11日

末廣堂 斉藤家所蔵 書画および郷土資料等奉納

奉納 斉藤裕昭様 (株末廣堂 代表取締役)



住吉丸太格子旧蔵 丹波焼「丸太かうし」小皿9枚

住吉名物「さつま焼」で知られる末廣堂の4代目主人・斉藤裕昭様のご篤志により、同家所蔵の資料が住吉大社へ奉納されました。資料は、山岡鉄舟の書「花撲玉釘春酒香」(軸装)、藤澤南岳の書「鳥語雲心」(額装)、菅楯彦の画「鑑師」(軸装)、丹波焼の皿「丸太かうし」(白黒九枚)、藤沢桓夫の俳句「青嵐鷺吹き出され飄々と」(額装) 以下約60点におよび、今回、貴重な書画や郷土資料を奉納いただきました。

右の「丸太かうし」とは往年の名店「丸太格子」のことです。江戸時代からつづく飲み屋で、古典落語「三枚起請」にも登場します。店先の縄暖簾が目印で、参詣の庶民に親しまれました。戦前に閉店した際、末廣堂の先代主人・安弘氏が、同店主の薙野氏から形見分けで頂戴したという逸品です。



菅楯彦画幅「鑑師」

住吉大社ゆかりの菓子舗、末廣堂(本店・住吉区東粉浜3丁目12番14号)は、住吉名物「さつま焼」を製造・販売するほか、住吉大社の神饌も謹製してい



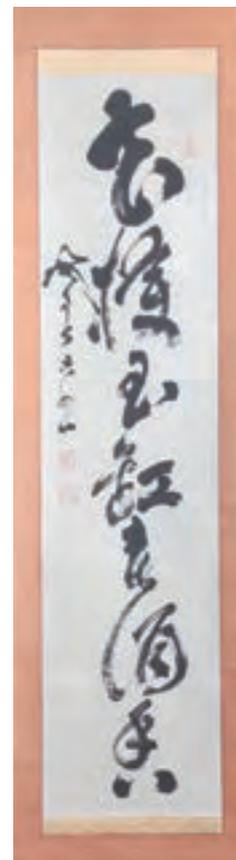
藤澤南岳書額「鳥語雲心」大正8年（1919）



末廣堂 4代目主人 齊藤 裕昭氏



内国共産品博覧会「有功一等賞金牌」
明治44年（1911）



山岡鉄舟書幅「花撲玉紅春酒香」

ます。明治の初期、薩摩出身の初代源三郎が創業、当時の住吉名物であった蒸し芋を模して名菓「さつま焼」を考案したと伝えられます。明治44年（1911）8月13日の内国共産品博覧会において「有功一等賞金牌」を受賞し、全国に名が知られて住吉銘菓の代表格となりました。大正11年3月30日の貞明皇后（大正天皇の皇后）の住吉行啓のほか、皇族方へたびたび献上の榮譽にあずかり、伝統的な銘菓を今に受け継ぐ老舗です。

ちなみに、包装紙の絵柄（住吉踊）は生田南水（明治から大正の歌人・俳人・書画家）の絵、本店の木製看板は安江不空（明治から昭和の歌人・画家）の書で、明治から昭和初期が舞台となる朝ドラ等では常連のお菓子でもあります。余談ながら、「おちよやん」のモデルとなった女優・浪花千栄子は、戦前に近所に住んでいたこともあって、さつま焼をよく買い求めたとのこと。

住吉開帳 令和度疫禍の中で

住吉大社教学顧問
八木 意知男

はじめに

令和二年、二〇二〇年なる歳は、中国湖北省武漢市で初病例が確認された新型コロナウイルスの疫禍に明け暮れた。我々は癘疫れいえきのスピードと合併症の怖さを実体験することとなった。かかる世相の初期に宗教的護符として一世を風靡ふうびしたのは所謂「アマビエ」である。

「アマビエ」は妖怪研究者にして漫画家の水木しげるに依って世に出たが、元来は幕末の瓦版（京都大学図書館蔵）に載ったものであるという。つまり、世俗の中で流布したもので、宗教界から正規に発行された護符ではないのである。世俗の不安心の間隙をぬって出現したといつてよい。

実は、歴史の中で斯様な出来事はひとり「アマビエ」に限るものではない。藁わらをも掴つかみたい心の不安の数だけ存在するのかも知れない。疱瘡ほうそう絵・麻疹はしか絵・コレラ絵の類でも同じことである。

そこで、ここでは僅かな例を示し、住吉大明神信仰の一端を確認しておきたい。

一、麻疹と天然痘

日本は、有史以来様々な病の氣けに冒されてきた。中でも疫病は圧倒的な力をもって我々を苦しめて来たのであった。

『和名類聚抄』卷三に

疫エヤミトキノケ 説文三云、疫エヤミ音役、衣疫美 一 二 民皆病也

とある疫疾は、時節の氣と共に消長を繰り返す伝染病である。これの代表的なものが麻疹と天然痘てんぜんとう（疱瘡・痘瘡とも）であろうか。

麻疹（赤斑瘡・稲目瘡）は『栄華物語』「うらぐのわかれ」に

（長徳四年）それに今年例のものがさにはあらで、いとあかきかさのこまやかなる出できて、老たる若き、上下わかずこれをやみののしりて、やがていたづらになるたぐひもあるべし。

『住吉大社蔵 栄花物語標注』本位田・清水編を使用。
ただし一部分につき仮名を漢字に改めた。以下同。

と、「みねの月」にも

（万寿二年）かく言ふほどに今年はあかもがさといふもの出できて、上中下わかずやみのゝしるに、はしめのたびやまぬ人の、このたびやむなりけり。

とありて、「ぬのびきのたき」には

(承保四年) 四五月ばかりよりあかまがさといふこ
と出でて、世の人やむなごきこゆるに、六七
月になりてはいみじうやみまさりて、のこるな
く聞ゆ。

と見えている。

麻疹は、罹患すると喉中が稲摩いなまの時の如く、「はし
か」状態になる故、蘇我稲目に困んでの名称とされる。
しかし、痘瘡も麻疹も共に瘡かさが出来る伝染性流行病で
あった為、両者を疫病と一括に扱われても来た。

疫病にはやがて疫鬼が想定され、疫鬼を追払う行
事が設けられる様になる。追儺・道饗祭もそうである
し、多くの年中行事がこの意味を持つ。また、疫鬼が
存在するとすればその疫鬼を祭り手加減を願うこと
になる。而して痘瘡神が登場するが、麻疹の神は「麦
殿」以外に表に出てこない。

一方、痘瘡神なり麦殿なりを調伏し、忌避しよう
とする心は当然有る訳で、お札・お守り等がうみ出さ
れ、「痘瘡絵」・「麻疹絵」と称したものが幾種類も出
版された。代表的な品は「朱砂鍾馗」であったり「蘇
民将来札みんしやうらい（裏面には多く「急々如律令」の文字）」であつたり
した。ただし、痘瘡の場合は治癒後に痘瘡神送りとて
川海に流された故、残されている品は極めて少ない。

一、「アマビエ」

高温多湿な夏期を特徴とする日本では、それに見
合った農業が組み立てられ、その中で生活の安定がは
かられて来た。故に豊作は喜びであり、凶作は不安と
絶望となる。そこで人々は、天候を支配する天気あめに逆
らわぬ様に謹んだ生活を意識することになる。

謹（慎）みの生活は時として苦痛を強いる。この
苦痛を抑える合言葉が「痘瘡は面定め、麻疹は命定め」
なる諺である。謹みを破った烙印えいんがおされることにな
る。

では烙印をおされぬ為には如何にすべきか。それ
は、神仏の加護以外には有り得ない。そこで登場する
のが子兆である。子兆（予言）は、後々に責任を問わ
れることがない故に、多数出現することになる。

さて「アマビエ」であるが、「アマビエ」は次の如
く瓦版に載った（図・A）。



<図 -A> 京大大学図書館蔵「新聞文庫」所載「アマビエ」

当該記事は次の如く訓まれている（傍線私）。

- 1 肥後国海中江毎夜光物出ル、所之役人行
- 2 見る三づの如之者現ス、私ハ海中三住アマビエト申
- 3 者也、当年より六ヶ年之間諸国豊作也、併
- 4 病流行早々私ヲ写シ人々ニ見セ候得ト
- 5 申て海中へ入けり、右ハ写シ役人より江戸江
- 6 申来ル写也

弘化三年四月中旬

右の文中の私に傍線を付した(ア)(イ)(カ)により肥後国の海中に「アマビエ」は住んで居たと知られる。肥後国であるから熊本であり、熊本ならば『景行天皇紀』でも知られる不知火の八代海であろうか。「毎夜光物」ともある。

次に傍線部分(ウ)である(図・B)。この部分、



<図・B>

「アマビエト」と訓めなくもない。「エ」ではなく「エ」である。しかし「アマビ子」とも訓める。事実、この地に「アマビコ」が出現したとの報告もあり、とりあえず不明としておく。

傍線部(エ)は「アマビエ」が告げた予言。向こう六ヶ年の豊作約束である。そして(オ)には「病流行」と告げている。「病流行ノ時ニハ」とあるのではない。「豊作だけど病が流行する」と断言しているのである。さらに「病」が何であるかも気になるし、何処の神とも示されていないのも気になる。

三 「アマビエ」類似のこと

「アマビエ」は海中に住み、海上に出現し、海中へ入ったのであるが、長沢利明氏『江戸東京の庶民信仰』(講談社学術文庫、二〇一九年)は興味深い報告をしている。それは東京神田駿河台鎮座の太田姫稻荷神社(伝小野篁創祠)の縁起絵巻である。長沢氏は次の様に言われる。

縁起絵巻の図には、さかまく波濤の上に出現した老翁神の姿が明確に描かれているが、その全身は純白に浮かびあがり、何とも異様な姿のものにとらえられている。老翁神は篁に対し、世

に才識秀れた汝はほどなく赦されて都に帰れるであろう、しかし疱瘡をわずらう兆がみえるのでわが身を写してまつるがよい、さすればその憂なかるべしと告げるわけであった。

ここに語られている小野篁は配所へ行く途中、白頭老翁は稲を荷って出現した東寺の鎮守太田姫命、農業神稻荷大明神が疱瘡神としての御神徳を顕わした瞬間である。そして、「アマビエ」の構成との近似性に驚かされる。

太田姫命は、伊勢神宮地主神と関わるか否かは不明乍ら、『崇神天皇紀』における大田田根子と関わり有るか。また、その名称からして農業神の御神徳を有すると考えられる。その神使眷属が「鷲」である。故に、鷲が稲穂を伝えたとの伝承は各地に残る。春田を耕すと鷲が寄ってくる為に「春鋤」の別称を持つ。そして鷲となれば「鷲神社」である。

『校訂江戸砂子温故名跡誌』巻四に牛込雑司谷威光山法明寺(法華宗)東陽坊大行院所管の鷲明神が補足されている(図・C)。

△鷲明神の社 鬼子母神堂の前にあり、疱瘡をいのにしるしありと云、大己貴命の臣稻背命なりとか、大己貴命医術を授たまふ事あるゆへにや、



<図・C>『江戸砂子』所載 牛込方面図

これは酒井シヅ氏も『病が語る日本史』（講談社学術文庫、二〇〇八年）に於て

江戸では出雲大社の末社鷺明神を痘瘡神としてまつた。鷺明神は、いま、雑司が谷の大鳥神社の境内にまつられている。

といわれているもので、『出雲大社記』（続々群書類従第一所収）が

三十八社中 鷺社 痘瘡守護イナセハキノヨシ

とするを本社とするか。夏の八坂神社祇園祭の折、鷺舞が奉じられるのも所縁であろう。

しかし、痘瘡神は「イナセハキ」「稲背命」「稻荷神」ばかりではない。例えば、健丘『諸覚日記』（某家蔵写本、文化十三年年紀）には

痘瘡怪キ伝

神ハ床浦明神 常ニ信すべし

ほうそうの神わととゑは跡もなし

此ところらにはいもセさりけり

小児痘瘡エカゝり候得は、此神を祭り

松茸二本備ル、尤生なき時ニハ塩松たけ備ル

とある。麻疹には房事を厳禁することから産れた「床浦明神」もその一例である。

痘瘡神はそのまま麻疹神ともなり得、白髪老翁神の御姿は痘瘡神の御姿そのままに住吉大明神へと連想されて行く。

なお、住吉大社小出英詞氏の御教示に依れば、早稲田大学図書館九曜文庫蔵栗原東随舎著『古今雑談思出草紙』に取められたる「痘瘡除守りの事」条では痘瘡神は「美童」であるという。摂州住吉出身の人の語ったところというから、この痘瘡神はこれも住吉神のイメージかも知れない。

四 痘瘡神と住吉社

痘瘡神は赤いものが好きだとも、嫌いだと伝えられ、罹患すると患者は赤色に埋めつくされた。治癒後これは一切水に流された。故に「痘瘡まじない絵」は残りが少ない事となる。しかし「麻疹まじない絵」でありながら「痘瘡まじない絵」の構成をとる品も少なくない。そうした中の一枚（図・D）。



<図-D>「赤姫だるまはしか絵」
「下部に逃げまどう麦殿が描かれて居り、はしか絵であることを示している」

はしかの

一英斎

まもり 芳艶書

1 夫痘疹ハ聖武帝天平年中筑紫の人

2 新羅国に漂流して此疾に染で販る 是

3 より我朝に始めて流布す 尤疹ハ

4 時々流行すと雖疾時ハ人命に

5 至るも少なからず 去ながら痘にハ壇を

6 設て神を祭れど末疹に神有

7 を知ず 或書に日住吉大明神ハ三韓

8 降伏の御神なれば麻疹を病者ハ宜敷

9 壇を築て御神の冥助を祈るべしと有 是寔に

10 確論也 故に今此緯を諸人に知す 必疑

べからず

11 ○たらよの葉 但あを木の如トし

12 ○むぎのほ ○きんかん ○ひいら木の葉

13 右の内いづれにても一品を門口につるしお

けバ其内へはしかいらずと云り

- 14 今戸焼の火入八病者の側におけバよしとなり
 15 応需 春霞樓主人誌

此文は総ルビなれど一部分を省略した。
 漢字の一部分を現在通行字体に改めた。

図・Dは、多羅葉型に「はしかのまもり」と有るが痘疹両病にふれる。

文中1〜3行は『続古事談』（新日本古典文学大系所収本）五・六話に

もがさと云病は、新羅国よりおこりたり、筑紫の人魚をかひける船、はなれて彼国につきて、その人うつりやみてきたれりけるとぞ。天平九年官符に、「この病、痢にならんととき、にら・きをせんじて多くくふべし」とあり。（後略）

とあると重なる。

次に文中7〜9行であるが、この神功皇后伝を以て流行病の圧えにせんとするの考えは、牛山香月啓益（元文五年三月没）が正徳四年（一七一四）に著わした『小児必用養育草』に

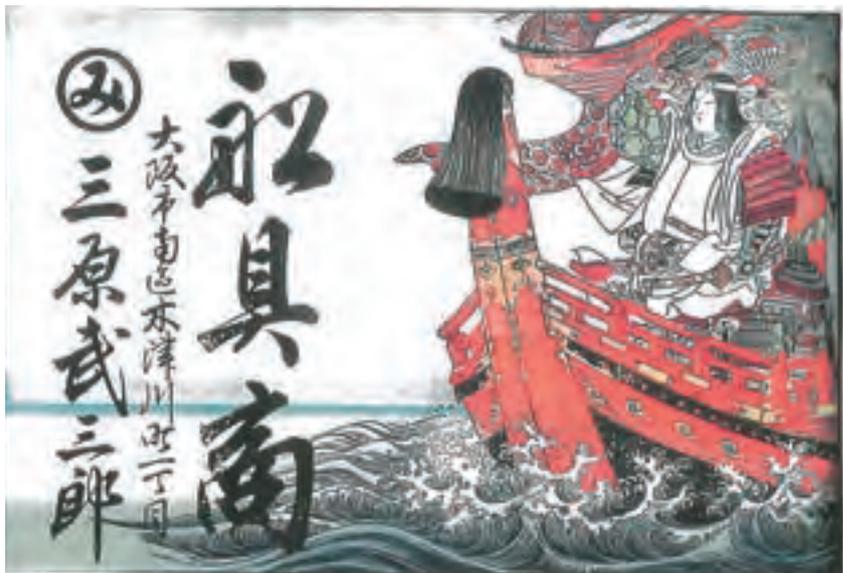
今時の神道者は、痘瘡の神は住吉大明神を祭るべしといへり。住吉大明神は三韓降伏の神なり。痘は新羅の国より来る病なれば、此神を祭りて病魔の邪気に勝つべき事なりとぞ、好事のもの、説なるにや

とあるを承けると思量される。「住吉大明神は三韓降伏の神なり」を牛山は神道者の説だといっている。誰の言説であるのかは知らないが、牛山は紹介しているに過ぎない。

しかし、神功皇后の三韓征伏は重く、その上社殿は朱に彩られ、糝かて加えて鷲もいる（『住吉神社割』、平成十七年発行『住吉さん』所載）。住吉社が痘を圧える神

と崇められても然るべきであろう。この信仰を延長させた所に図・Eの引き札が存する。

船具商三原武三郎（大阪市南区木津川町）から石版刷で出された本品は、京都府綴喜郡宇治田原町の田村資料館所蔵の引札であり『田村コレクション引札』（京都書院、平成八年）に所収。神功皇后と御座船を描き三韓征伐の景を示す。朱に描かれている当該引札は、そのまま痘瘡のまじない絵として使用が可能であったと考えられる。



△図・E V 「神功皇后三韓征伏図」引札

（『田村コレクション引札』（京都書院）所載）

戦前の民家では引札を柱絵とする事例が多くあった。柱に糊貼りするは、そこに信仰的意義を感じていたからに他ならない。

おわりに

住吉大社末社に「海土子社」と呼ぶ鵜茅葺不合尊を御祭神とする神社（例祭二月一日）が存する。

『住吉名勝図会』には

海人子社

（井垣の外、南向の御社）祭神市杵島姫。また日く、葺不合尊・玉依姫とも云へり。（一説に、葺不合尊を祭るゆゑをもつて、あまこの社といふといへり）

と見える。この社について『住吉松葉大記』は巻五撰末部八に

海土子神社

神名未詳。此社を弁財天女とやらん云ひ伝へて、神象を画き社に挂たりしを予も今におぼへ侍る。近代の説に市杵島姫命と云へるは無稽の推量歟。弁財天女と云ふは仏家に尊崇する福神也。曾て神道に此神名なし。海土子の文字仮名に叶はゞ若海神にはあらぬにや。

と説く。地神第五代彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊はかつて住吉大社御祭神の一柱とも目された神であるが、この神と玉依姫との間に四神をなした。『神代記』には

この天つ日高日子波限建鵜葺合へずの命、その姨玉依毘売の命に娶ひて、生みませる御子の名は、五瀬の命、次に稲氷の命、次に御毛沼の命、次に若御毛沼の命、またの名は豊御毛沼の命、またの名は神倭伊波礼毘古の命四柱。かれ御毛沼の命は、波の穂を眺みて、常世の国に渡りまし、稲氷の命は、妣の国として、海原に入りましき。

とある。

ここにある「稲氷の命」（紀では「稲飯命」）は「妣の

国として、海原に」お入りになった。やがて「神武天皇即位前紀」乙卯年六月条には「乃ち剣を抜きて海に入りて、鋤持神と化為」つたとある。「鋤」は鋤を意味するが又剣や鰐をも意味する。字面通りに受け入れれば鋤持神＝農業神である。つまり稲の神が農業神へと変化したと見ることが可能となる。ここには「アマビエ即ちアマビコ」が六ヶ年の農作を宣告する由縁がある。更に、『新撰姓氏録』（『神典』所収本）巻五「右京皇別 下」には

新良貴

彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊の男、稲飯命の後なり。是は新良国にて国主と為りたまひき。稲飯命は新羅国王の祖なり。日本紀に見えず。

とある。つまりこの伝に従えば稲飯命は新羅国王の祖であるということになり、それであれば神功皇后との所縁は深いことになる。

ただし、『住吉大社神代記』が掲げる「海神」は

「津守安必登神（二前。海神と号く。）」

と「子神」条に挙げられている。これは或いは遣隋使・遣唐使の時の必用か。謎は深く、容易に辿る事は出来ない。

住吉大明神は、かつて流行病を調伏する神として信仰された。その御神徳の確認をしたのである。

（京都女子大学名誉教授）

住吉さんと太閤さん 第二回

——松下嘉兵衛と住吉の関係をめぐる——

北海道大学大学院／日本学術振興会特別研究員

竹内 洪介

住吉大社と豊臣秀吉——どちらも古くから大阪で愛され、親しみを込めてそれぞれ「住吉さん」「太閤さん」と呼ばれた存在です。ここでは、江戸時代に流布した秀吉の伝記的資料を中心に、そんな「住吉さんと太閤さん」の意外なかかわりを探ってみたいと思います。



東京都立図書館蔵『太平記英勇伝』より、「松下加兵衛之綱の図」(1867年1月刊行、画像は一部トリミングして加工した)。

突然ですが、皆さんは松下嘉兵衛（加兵衛）という人物をご存知でしょうか。

松下嘉兵衛は現在あまり知名度が高いとは言えませんが、豊臣秀吉が織田信長に仕えるより前に奉公していたとされる武将です。以下に説明が簡潔な、『日本人名大辞典』の記述を掲げます（引用の都合上、本文の意図を損なわない形で若干手を入れたところがあります。以下同様です）。

松下之綱（まつした・ゆきつな）

一五三七～一五九八。

戦国～織豊時代の武将。天文六年生まれ。松下長則の子。今川氏に属し遠江（静岡県）頭陀寺城主。このころ日吉丸（のちの豊臣秀吉）が三年間の綱につかえている。のち徳川家康、秀吉につかえ、天正十八年遠江久野二万六千石の城主となる。慶長三年二月二十九日死去。六十二歳。三河（愛知県）出身。通称は嘉（加）兵衛。

ここにあるように、今の静岡県で今川氏に仕えていた嘉兵衛は、一時期秀吉を召し抱えていたとされています。後年嘉兵衛が秀吉の傘下に入り、大名になったことを考えあわせると、嘉兵衛は当初秀吉の主君でありながら後にはその傘下に入るという立場の逆転を経験することになった、ということができます。

この嘉兵衛にまつわる一連の話は『太閤記』や『絵本太閤記』等、秀吉の伝記的作品群に多く見られ、近代に至っても語り継がれました。大正から昭和にかけて刊行された小学生の教科書『尋常小学修身書』に載る秀吉伝にも、嘉兵衛に関する記述がその全分量の五分の一を占めています。二〇〇三年に放送された『太閤記サルと呼ばれた男』（草薙剛主演）では、中井貴一演じる嘉兵衛が物語全体の狂言回しのな役どころを担っています。

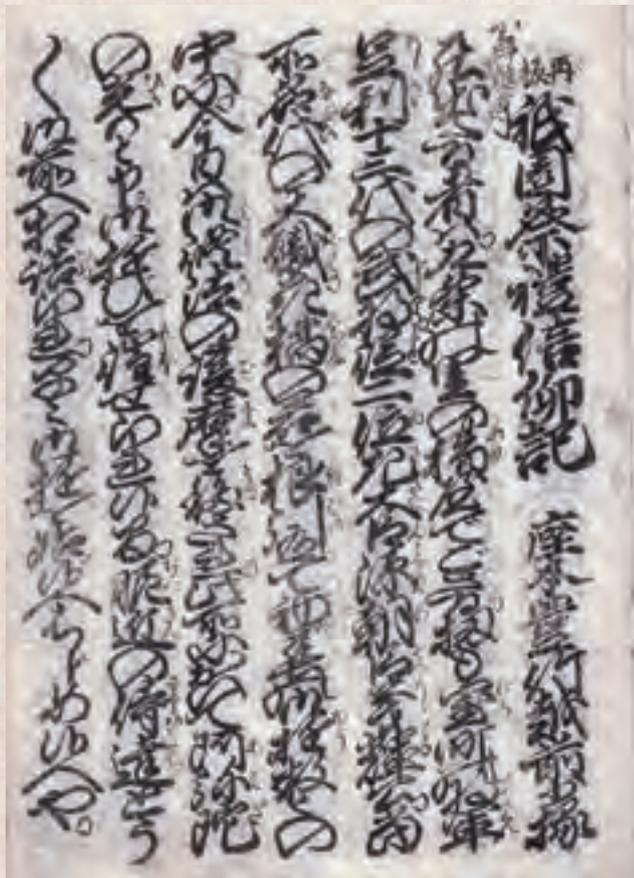
こうした嘉兵衛の事績は江戸時代の演劇作品にも反映されることになりました。たとえば、秀吉の若年期の逸話を元に作られた浄瑠璃『出世握虎稚物語』（竹田出雲作、一七二五年初演）では、松下加兵衛（嘉兵衛）は今川義元の軍師かつ兵吉（秀吉）の主人であり、



『絵本太閤記屏風』中の一図「松下加兵衛日吉丸を見る」。左端の人物が加兵衛（嘉兵衛）、右端の子供が日吉丸（のちの秀吉）。本屏風は『絵本太閤記』に所収される挿絵16点を極彩色で引き写して仕立てたもの。本図は『絵本太閤記』初編巻一「松下加兵衛日吉丸を見る」に対応する。

ストーリー中盤の舞台が加兵衛の屋敷に設定されるほど重要な役どころとなっています。前号で扱った浄瑠璃『本朝三国志』（近松門左衛門作、一七一九年初演）でも、天下統一を果たした久吉（秀吉）の元に「遠州浜名の住人、松下嘉平次」という、久吉の旧主を名乗る浪人が現れ、その嘉平次が第三段で中心的な役割を担うこととなります。また、『松下嘉平治連歌評判』（吉井勢平等作、一七七三年初演）は、題名の通り嘉平治（嘉兵衛）が作品の中心人物です。

このように、豊臣秀吉を取り上げた演劇作品において、松下嘉兵衛はかなり重要な位置にありました。秀吉の一生を通してみれば、それほど重要な存在ではない嘉兵衛が演劇世界でこれほどの活躍の場を与えられたのは、一つには嘉兵衛が秀吉の旧主でありながらそ



『祇園祭礼信仰記』の台本（再版本）。

の傘下に入るとい立場が、主役である秀吉の出世劇をはっきりと印象付けるものだからだと考えられるでしょう。そのためか、『太閤記』等の編纂物では幼少の頃の秀吉と嘉兵衛の関わりだけに焦点が当てられている一方で、『本朝三國志』以下、信長に仕えた後の秀吉を取り上げた複数の演劇作品は、歴史的事実とは全く関係なく秀吉が権力者となった時期に嘉兵衛を登場・邂逅させ、その場面を大きく取り上げています。この場面においてはかつての家来である秀吉と対面する嘉兵衛の人物像が様々に設定され、いくつかの作品ではその設定が極めて複雑になっています。その設定の一つが、松下嘉兵衛が住吉大社からほのない地域に住んでいる、というものです。

松下嘉兵衛が住吉に住んでいる、という設定を採用した演劇作品のうち、その成立が一番早く確認できるものは、浄瑠璃『祇園祭礼信仰記』（中邑阿契・浅田一鳥等作、一七五七年初演）です。「信仰記」は「信長記」のもじりで、小田信長（織田信長）と真柴久吉（羽柴秀吉）が室町幕府を誑かす黒幕・松永大膳（松永久秀）に立ち向かう物語です。松下嘉平次の名で登場する嘉兵衛は、当初借金を抱えた薬屋の是斎という名前で登場します。この是斎が中心となって活躍する第三段の舞台が住吉です。薬屋是斎を仮の姿とする嘉平次は第三段にのみ登場する人物であるものの、かなり複雑な人物設定がなされていることに注目できます。嘉平次は最後に悪役の大膳と手を組んだことにより切腹してしまうのですが、その際に自身が中国人（当時の中国は明という国が支配していました）であるという驚くべき事実を告白します。嘉平次の語るところを抄出して纏めると、明が朝鮮との国境争いで敗北したのをきっかけに日本に渡来した彼は一時期遠江に住み、久吉を召し抱えます。しかし久吉が金を盗んで脱走したために難儀し、結局今は大坂に逃れ、是斎と名を変えて薬屋を営んでいた、というのです。ではいったいなぜ、嘉平次は住吉に住むことになったのでしょうか。

中国（明）で生まれる。

朝鮮との争いで明が敗北、
日本に渡来。

松下嘉平次と名乗り遠州で仕官。
若年期の久吉を召し抱える。

久吉が金を盗んで逃亡し
たため難儀し、住吉へ逃
れる。

是齋と名乗り薬屋を開業。

貧窮し、松永大膳一味に
加担。

久吉と再会、大膳一味に加担した
ことで切腹。死に際に周囲に朝鮮
出兵の夢を託す。久吉は嘉平次の
死地を「天下茶屋」と名付ける。

図①『祇園祭礼信仰記』における松下嘉平次の
経歴（今回言及したものに纏って纏めた）

図①に示したような放浪の末、住吉で薬屋を営んだ是齋については、そのモデルを小西如清（小西行長の兄、堺の商人・茶人）とする興味深い指摘があります（金昭賢『祇園祭礼信仰記』における韓国——是齋像をめぐる——）。この指摘の根拠は是齋と如清の二名の名前の読みと薬屋という職業が共通していることにあります。しかし、如清は生涯堺で開業していたので、住吉で開業していた是齋とはその特徴が微妙に整合しないように思われます。そうした疑問に基づき、改めて当該作を読み返してみたところ、「天下茶屋」の地名に注目したアプローチから新たな是齋像の元ネタを見出すことができました。

第三段の最後に嘉平次は同席していた久吉などの面々に先祖代々の仇敵である朝鮮の地理を説明し、久吉に朝鮮討伐の望みを託して切腹してしまいます。久吉は嘉平次の死を悼み、茶屋を構え通行人に茶を施すのが嘉平次への追善供養だと述べ、この地を今後「天下茶屋」と呼びならわそうと言います（なお、天下茶屋は住吉大社と直線で約二キロ程度の近距離にあり、後掲する『撰津名所図会』でも住吉郡に分類されています）。実際、天下茶屋の地名は秀吉が住吉大社に詣でた際に芽木家（のちに「天下茶屋」として知られるようになった茶の旨さに感動したことに由来するという伝承があり、『大阪の地名由来辞典』、本作に先行する『本朝三国志』でもその逸話がそのまま反映されています。しかし、本作ではこの逸話の他に、以下に示すもう一つの伝承も併せて利用したことが認められます。

秀吉の伝承を持つ芽木家の天下茶屋跡から北に三〇〇メートルほど移動したところに天下茶屋公園があります。ここにそのもう一つの伝承を持つ茶屋跡があります。『撰津名所図

会」(二七九六年刊)によれば、こちらの茶屋跡は寛永年間(一六二四～一六四五)に是齋屋と呼ばれていた茶屋の跡地で、和散中という葉湯を売って大評判になったとあります。『祇園祭礼信仰記』には和散中が是齋の経営する葉湯の看板商品であることが示されており、この伝承も同作に影響を与えたであろうことは容易に推測されます。したがって、『祇園祭礼信仰記』の是齋像は天下茶屋と是齋屋の伝承を元にして創り上げられたと考えてよいでしょう。なお、次回詳しく扱いますが、江戸時代後期に「芽木家の天下茶屋」は「是齋屋」という図式が一般に普及していたのもまた事実です。『祇園祭礼信仰記』もその影響を受けてこうした創作を行ったのかもしれないと推測されます。

ここまででの検討および図①に示したような事例からも明らかのように、『祇園祭礼信仰記』は複雑な人物設定と先が読めないストーリー展開の連続が持ち味になっているといえます。同作はまた初演当時からせり上げ装置などの最新の舞台装置を取り入れる等の工夫も凝らされており、浄瑠璃の技巧発展期を象徴する作品ともいえます。さらに初演から三年ものロングランヒットも飛ばし、その後も現在に至るまで上演され続けています。この結果、ここまで述べてきたような嘉平次の設定は部分的ではありますが『三日太平記』(近松半二作、一七六七年初演)や歌舞伎『時今也枯梗旗揚』(時枯梗出世請状とも。鶴屋南北作、一八〇八年初演)等の後続作品に受け継がれ、広まっていくこととなります。また、前掲した浄瑠璃『松下嘉平治連歌評判』は『祇園祭礼信仰記』の嘉平次と中国人という設定を引き継ぎ、久吉が朝鮮出兵を決意するさまが描かれています。

以上、秀吉の旧主松下嘉兵衛に注目し、江戸時代の演劇作品において嘉兵衛の存在が極めて大きかったこと、『祇園祭礼信仰記』では嘉兵衛(嘉平次)が住吉にほど近い天下茶屋に住む設定にされていたこと、そしてその天下茶屋にまつわる二つの伝承が嘉平次像の形成に影響を与えたと考えられることを指摘しました。次号では今号でも扱った天下茶屋の伝承に焦点を当てて、さらに住吉大社と秀吉との関係を探っていきます。

参考文献

- ・『大阪の地名由来辞典』(東京堂出版、二〇一〇年)
- ・『歌舞伎台帳集成』第三十卷(勉誠社、一九九三年)
- ・『近松全集』第十一卷(岩波書店、一九八九年)
- ・『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集① 出世握虎稚物語』(玉川大学出版部、二〇〇六年)
- ・『国立劇場上演資料集(六十五) 第十八回文楽公演 祇園祭礼信仰記・碁太平記白石断』(国立劇場・芸能調査室編、一九七一年)
- ・『鶴屋南北全集』第一卷(三二書房、一九七一年)
- ・『豊竹座浄瑠璃集』三(国書刊行会、一九九五年)
- ・『平二戯曲集』(国民文庫刊行会、一九二〇年)
- ・『日本人名大辞典』(講談社、二〇〇一年)
- ・金昭賢『祇園祭礼信仰記』における韓国―是齋像をめぐる―(『映像演劇学・演劇博物館グローバルCOE紀要』第四号、二〇一〇年)



1796年刊『摂津名所図会』巻1所収「天下茶屋村是齋茶店」(住吉大社所蔵)

書画の奉納

令和2年9月27日

「官幣大社住吉神社大阪築港渡御之図」藤原金穂筆

「酔処翁筆 宝丸」西村捨三筆

計2幅

奉納 前田恵三子様（吹田市）

明治時代、大阪港の第一次造成事業が竣工、それを記念して住吉大社から築港へと神輿が船渡御するようになりました。その神輿を載せる御座船の建造に関わった前田卯之助氏に対して贈られた絵画と書跡と書跡と思われ

ます。
造船業を営んできた前田家は、明治20年（1887）の認可以来、西洋型造船所として本格的な近代船舶の建造を行ない、長く造船業界に貢献されてきました。前田卯之助は、大阪築港事務所所長の西村捨三の依頼を受け、住吉大社御座船を建造しました。竣工した御座船は明治35年（1902）10月に奉納となりました。その功績を記念して、当時の宮司津守国美が藤原金穂に描かせた絵を贈呈し、また、大阪築港所長の西村捨



①「官幣大社住吉神社大阪築港渡御之図」（藤原金穂筆）



②「酔処翁筆 宝丸」（西村捨三筆）

三からは船号「宝丸」の直筆の書が贈られたのでした（※御座船宝丸は、その後、明治41年に解体処分となる）。

以来、前田家の家宝として大事に所持されましたが、孫の道郎様のご逝去され、ご遺志を受けられた妻・恵三子様によって、このたび住吉大社へ奉納となりました。



住吉北祭で船渡御した御座船「宝丸」
（絵葉書「官幣大社住吉神社北祭船渡御長峽ノ浦御発船丸」より）

① 官幣大社住吉神社大阪築港渡御之図（藤原金穂筆）

箱書「此幅ハ大阪築港事務所長正四位勲三等西村捨三翁力仰明治三十年十月十七日大阪築港起工式ヲ挙ルヤ住吉大神ニ祈願シ以テ築港ノ竣工ノ大成ヲ図ル時ヤ全三十六年埠頭鉄橋既ニ成ル同時ニ住吉宝ノ市神事再興ヲ発祀シ全年五月第五回内国勸業博覧会ニ際シ全月卯ノ日鉄橋渡初メニ住吉四社ノ御神輿ヲ奉迎セントスル御座船ノ新造ヲ所長ヨリ造船所前田卯之助氏ハ命セラレ氏常ニ住吉大神ヲ崇敬深キヲ以テ速ニ承造成其船体堅美ニシテ宝丸ト名銘ス且此図ノ如ク盛祭ニ終始尽力サレタルニ依住吉神社宮司火明命九十世ノ孫從四位男爵津守国美公此図ノ揮毫ヲ余ニ命シテ感謝状ニ添前田氏ニ贈リタル者也」ノ大正十三年甲子歳一月廿六日 東宮殿下御成婚佳日墨江祠外竹裡亭ノ住吉大社絵所預藤原金穂題併識于時七十有三

② 酔処翁筆 宝丸（西村捨三筆）

箱書「時ハ明治三十六年大阪新築港鉄橋落成ノ際築港所長從三位勲二等西村捨三君ノ発起ニテ官幣大社宝ノ市御神事再興同時ニ鉄橋渡初メニ住吉四社ノ大神渡御在セラレリ渡行ノ図ヲ予ニ右所長及住吉宮司津守国美男ノ命ニ依リ横八間ノ長巻ニ其図ヲ揮毫ス図中四神ノ御乗船ヲ造船主前田卯之助氏ニ命セラレ氏ハ常ニ住吉大神ヲ信仰ノ人故ニ速ニ其命ヲ請六百石積ノ御座船堅牢美觀ニ造成ス時ニ船名ヲ所長西村君宝丸ト名銘ス則チ此幅宝丸ノ二字ハ船尾ニ銘スル原書ニシテ所長西村君ノ揮毫セシ者ニシテ前田氏紀念トシテ永ニ保存為ス者ナリ」ノ昭和五年十月十二日住吉大社画所預藤原金穂題併識八十翁

住吉大社の青石

前川 寛和

住吉大社を訪れると、所々で緑色く青緑色の石碑が目に入る。これら石碑は、住吉大社神主の第三十九代津守国基が、紀州和歌浦より玉津島神を勧請した際に、玉津島から住吉の地に運ばれたと伝えられている（小出、2018）。古くから青石として親しまれてきた岩石が用いられているが、実はこの青石、大変数奇な経験を積み重ねてできた岩石（変成岩）なのである。さらに、その成因をたどると宇宙創生まで遡ってしまうという神秘さをも兼ね備えている。



図1・津守国美歌碑
和歌は平らな片理面に刻まれている。左下は側面の拡大写真（ペンの長さは13cm）。縦縞模様（片理）がはっきりと見える。

まずは、住吉大社内、反橋と四本宮の間にある津守国美の歌碑（図1）を例にとつて私の見立てを紹介してみよう。歌碑は青緑色をしていることからマグマ由来の変成岩、溶岩ではなく、それが粉々になった碎屑物が堆積して固まったもの（火砕岩）で、側面の顕著な縦縞（片理）（図1左下）から、『緑色片岩』であることがわかる。これらの特徴に加え伝承を考慮すると、この青石は三波川変成帯に属する岩石で、今から約一億年前、プレート沈み込み帯の地下20km～30kmの深さで形成された岩石ということになる。本稿では、私の専門である岩石学の立場から、このような青石の持つ特徴やでき方について、できるだけわかりやすく解説する。最初に変成岩についてお話しするが、やや専門的すぎるとの印象をもたれるかも知れない。話を進める上で必要なので、どうかご容赦いただきたい。

変成岩とは

岩石の多くは鉱物の集まりでできており、火成岩、堆積岩、変成岩の三つに大別される。ここで鉱物とは、天然に産する無機質の結晶で、規則正しい原子の配列をもつものである。火成岩は高温のマグマが冷えて固まってでき、堆積岩は砂や泥、生物の遺骸などの碎屑物が厚く集積し、それが固まってできる。火成岩や堆積岩が、それらができた時とは違う温度と圧力の環境下に長い間おかれると、原子レベルで鉱物の再編成が行われる。化学的により安定になるために、鉱物の種類が変わったり化学組成が変化したりするのである。そのような過程を経てできた岩石が変成岩で、変

成岩ができる作用が変成作用である。一度できた変成岩が別の変成岩になることもある。

さて、どのような変成岩になるかは、変成の程度（変成度）と元の岩石の化学組成で決まる。変成度が高いというのは温度と圧力、あるいはどちらか一方が高かったという意味である。一般に変成度が高いと変成岩をつくる鉱物は大きく、低いと小さくなる。そのため変成鉱物の大きさは変成度を推定するための良い目安になる。

変成岩の色は主に化学組成の違いによる。溶岩や火砕岩を原岩とする変成岩は、鉄やマグネシウムを含む緑色を帯びた鉱物を多く含むので緑色になる（図2上）。一方、泥岩は植物などの生物の遺骸が炭化（黒色の炭質物や石墨ができる）し、黒色になる。砂岩は泥岩としばしば一緒にみられるが、泥岩に比べて無色の石英を多く含むことが多い（図2下）。

変成度の指標となる圧力は、地表から変成作用を受ける場所までの積み重なった岩石の重さ、すなわち地表からの深さに比例して高くなる。水中にゴムボールを沈めるとあらゆる方向から大きさの等しい力（静水圧、封圧）を受けゴムボールは均等に縮むが、この時の圧力がそれである。一方、ゴムボールを一方方向に押し潰すと変



図2・和歌浦の緑色片岩（上）と砂泥質片岩（下）
下図で黒い部分は泥質片岩、白っぽい部分は砂質片岩。両者は互層するが、前者は左側、後者は右側で卓越する。



図3・和歌浦（雑賀崎）の緑色片岩



図4・三波川変成帯の分布

形してぺしゃんこになる。変成作用の時には、このような力が封圧とは別に働くことがあり、変成鉱物が特定の面内で平べったく成長したり、引き延ばされたりして片理を形成する（図1）。片理をもつ変成岩を結晶片岩、特に緑色の変成岩を緑色片岩、泥質の変成岩を泥質片岩あるいは黒色片岩、やや粗粒で石英を多く含む白っぽい変成岩を砂質片岩と呼ぶ。

住吉大社の青石と三波川変成帯

変成岩は広範囲に帯状に分布することがあり、これを広域変成帯という。住吉大社の青石の原産地とされる和歌山市和歌浦の玉津島神社周辺に分布する緑色片岩（図2上、図3）は、「三波川変成帯」と呼ばれる広域変成帯に属している。なお、本稿では、和歌浦を新和歌浦や雑賀崎さいがさきも含む広義の地域として扱う。

三波川変成帯はわが国最大の断層帯「中央構造線」の南縁に沿って、九州佐賀関から四国、紀伊半島を経て関東山地まで延長800km余りにわたって分布する（図4）。様々な結晶片岩で構成されているが、藍閃石という青色の鉱物を含むことで特徴づけられる（図5下）。

三波川変成帯は、泥質片岩に含まれる鉱物により細分

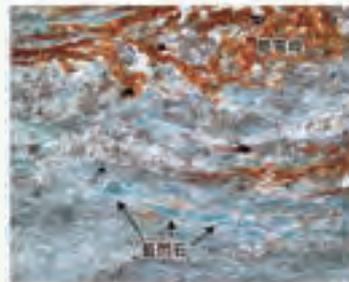


図5
和歌浦（雑賀崎）の緑色片岩（上）と
青色片岩（下）の偏光顕微鏡写真
横幅は1.4 cm。

され、変成度の低い緑泥石帯、中間のざくろ石帯、変成度の高い黒雲母帯の三帯に分けられる。緑泥石帯には緑泥石が含まれ、ざくろ石帯では緑泥石に加えてざくろ石が含まれるようになり、黒雲母帯に入ると黒雲母が加わることで区別される。ざくろ石帯では、径1〜2mmの白色の丸い粒（曹長石の斑状変晶）が数多くできるので、低温側の緑泥石帯とは野外でも比較的容易に区別できる。住吉大社の青石の多くは片理が良く発達した緑色片岩である。青石が緑色片岩というのは違和感をもたれるかも知れないが、これは古代の色名『あを』が青色と同じ寒色系の緑色も含んでいたためである。青葉、青菜など緑色のものに青が使われているのと同じで、和歌浦には青石海岸と呼ばれる緑色片岩の海岸もある。住吉大社の青石は、和歌浦周辺に露出する緑色片岩と変成度や片理の発達程度などの特徴が良く似

ている。どちらも変成鉱物が細粒で、曹長石の斑状変晶が認められないことから、緑泥石帯の岩石であることがわかる。これらの特徴から、和歌浦が青石の原産地であったことは疑いの余地はないであろう。和歌浦の緑色片岩は、緑簾石、緑閃石、緑泥石などの緑色の鉱物を多く含んでいるが（図5上）、これらの鉱物に加えて青色の藍閃石が含まれることがある。藍閃石が多くなると岩石の青味が強くなり、そのような変成岩は青色片岩と呼ばれる（図5下）。住吉大社の青石の一部にも青色片岩が認められる。



図6
和歌浦周辺の地質図（宮田他、5万分の1地質図幅「和歌山及び尾崎」より）

結晶片岩は片理面に沿って剥がれやすく、剥がれた面は平らになる。住吉大社の青石には、この片理面を利用して石碑の文字が刻まれている。片理面に直交する方向では、面が凹凸になり硬さも不均質で、文字を刻むには大変具合が悪いのである。

和歌浦に露出する三波川変成岩類は、緑色片岩に比べ砂泥質片岩が多いが(図6)、もっぱら緑色片岩と青色片岩が住吉まで運ばれている。玉津島神社や隣接する鹽竈神社の石碑の多くにも緑色片岩が用いられており、当時の人々の青石に対する強い愛着が感じられる。住吉大社の歌碑や句碑は、木々の青さと調和がとれて自然の風景に溶け込み、いかにも美しい。いにしえの人々に思いを馳せ、これらをじっくり眺めたい。

青石の形成場

三波川変成帯のような藍閃石を特徴的に含む変成帯は、環太平洋周縁地域に数多く分布する(図7)。藍閃石を初めとする構成鉱物の安定性から、低い温度と高い圧力の条件で形成されたものであることがわかっており、低温高压型変成帯(以下、高压変成帯と略す)と呼ばれる。これらの多くは、ジュラ紀〜白亜紀(今から1.2〜0.6億年前)に形成されたもので、その分布は当時のプレート沈み込み帯の位置に良く一致している。沈み込み帯周辺では、冷たいプレートが絶えず沈み込むことにより周囲を冷やすため、深さ(圧力)の割に温度が低くなり低温高压条件が実現する。さらに、マリアナ海溝(図7)のような現在活動しているプレート沈み込み帯からも、実際に高压変成岩が確認されている(Maekawa et al. 1993)。これらの事実から、環太平洋縁辺域の高压変成帯は、プレート沈み込み帯で形成されたと考えて良いであろう。ちなみに三波川変成帯は、環太平洋縁辺域の高压変成帯

の中で最も早い時期に研究が開始され、かつ最も詳しく研究されている変成帯である。

住吉大社の青石に話をもどそう。海洋側から供給された碎屑物や海山の破片が東側にあった海洋プレート(イザナギプレート)の西方への沈み込みにより海溝に掃きよせられ、海溝の下20km〜30kmの深さに押し込まれる。その場で数百万年〜数千万年の長期間にわたって高压作用を受けた。その真上の地表では恐竜が闊歩していた1億年前のことである。その後、中央構造線に沿ってそれら変成岩類が急上昇し、地表に三波川変成帯が形成される。住吉大社の青石は、実にこのような複雑な経緯をした岩石なのである。日本列島はプレートの沈み込みによってその真上に形成されたが、住吉大社の青石は、まさにそれを象徴する岩石といえる。



図7 環太平洋縁辺域の高压変成帯(青色の地域)

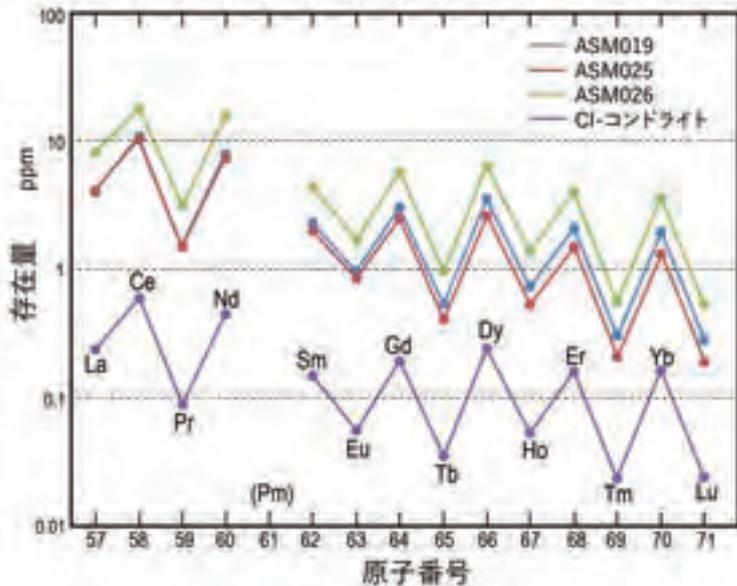


図8・緑色片岩とCI-コンドライトの希土類元素
Pm (プロメチウム) は分析が困難なので除いてある。
ASM019, 025, 026: 三波川変成帯の緑色片岩 (高知県
本山町汗見川)。Uno et al. (2014) のデータの一部を用
いた。CI-コンドライトの組成は McDonough and Sun
(1995) による。

宇宙創生につながる青石

図8は、青石(緑色片岩)の化学組成を表している。紀州青石の分析値がないので四国三波川変成帯の緑色片岩を借用したが、以下で述べることは、和歌浦や大社の青石においても、さらには他の地球物質においても、全く同じことがいえるということを初めにお断りしておく。縦軸は含まれている元素の重量比で、ppmという単位が対数目盛で表されている。1ppmは0.0001%である。横軸は原子番号57のLa(ランタン)から71のLu(ルテチウム)までの元素(希土類元素と呼ばれる)を順番に並べてある。一番下のCIコンドライトというのは太陽系で最も古い隕石で、太陽系の組成を代表している。地球上のあらゆる物質が元はこのCIコンドライトと同じ組成をもっていたことがわかつている。緑色片岩とCIコンドライトを比較すると、前者は後者に比べて個々の元素の量が増えている。このことは緑色片岩が地球上で様々な地学現象を受けたことよって生じた組成の変化を表している。ここで、ジグザグした凹凸のパターンに注目して頂きたい。このパターンは緑色片岩とCIコンドライトで大変よく似ている。実はこのパターンは、太陽系ができる以前にできたものであり、いまから138億年前のビッグバン以降の宇宙における元素形成の証拠そのものなのである。

すべての元素は、陽子と中性子からなる原子核とその周囲の電子でできている。今から138億年前に宇宙が誕生した直後には、クォークやニュートリノ、電子などの素粒子しかなかった。やがて素粒子から原子核の元となる陽子や中性子が形成された。続いて原子番号(=陽子の数)1の水素が誕生し、水素から原子番号2のヘリウムが核融合でつくられる。太陽のような

恒星が誕生するようになると、様々な元素が恒星内部や大きな恒星の末期で起こる超新星爆発で次々とつくられる。核融合反応により、軽い元素が合体して、より重い元素をつくっていくのである。

46億年前に我々の太陽系が誕生し、それ以後、太陽は水素からヘリウムをつくりだすことで光を放ち続けている。しかし、太陽は小さい恒星であるためにヘリウムより重い元素をつくることができない。それ故、太陽系のヘリウムより重い全ての元素は、太陽系誕生以前に、宇宙における核融合反応により生成されたことになる。太陽は太陽系の全質量の99・8%を占め、その組成は太陽が放つ光から推定することができる。太陽系最古の物質であるC Iコンドライトの化学組成は、太陽の組成と大変良く一致しており、太陽系の組成を代表していると考えられている。核融合によって形成される元素は、陽子の数、すなわち原子番号が偶数のものは安定で存在しやすく量が多い。一方、奇数のものはそれに比べて不安定で量が少なくなる。そのため偶数で多く奇数で少ないというジグザグのパターンが現れる。ランタンからルテチウムまでの希土類元素は、化学的性質が少しずつ異なるものの、概して大変よく似ているという他の元素にはない特徴がある。地球上でなんらかの事変が起こると、元素の量は変化するが、これらは一緒に動くために、隣り合う元素間の差はほとんど変化しない。それ故、太陽系誕生以前につくられたジグザグのパターンが保存されてしまうというわけである。

先に述べたように、図8のジグザグのパターンは地球物質に共通した特徴で、和歌浦や住吉大社の青石ももっている。住吉大社の青石には、プレート沈み込み帯での形成の遙か以前にさかのぼる、宇宙における元素形成の証拠が見事に残されているのである。138億年という途方もない時間の流れの中で、我々人類は宇宙の営みと決して無縁ではなく、むしろしつかりとつ

ながっている、和歌や俳句の刻まれた住吉大社の青石は宇宙誕生以降の悠久の時の流れと人との関わりを含蓄している、そのような思いで青石を見ていただければ幸いである。

(大阪府立大学名誉教授)

引用文献

- 小出英詞 (2018) 住吉玉津島社と紀州青石. 鶴崎裕雄・小高道子編著『歌神と古今伝授』(和泉書院) 39-64.
- Maekawa, H., Shozui, M., Ishii, T., Fryer, P., and Pearce, J. (1993) Blueschist metamorphism in an active subduction zone. *Nature*, 364, 520-523.
- McDonough, W. F., and Sun, S.-s. (1995) The composition of the Earth. *Chemical Geology*, 120, 223-253.
- 宮田隆夫、牧本博、寒川旭、市川浩一 (1993) 産総研地質調査総合センター 5 万分の 1 地質図幅「和歌山及び尾崎」(<https://www.gsj.jp/Map/JP/geology4-11.html#11072>)
- Uno, M., Iwamori, H., Nakamura, H., Yokoyama, T., Ishikawa, T., and Tanimizu, M. (2014) Elemental transport upon hydration of basic schists during regional metamorphism: Geochemical evidence from the Sanbagawa metamorphic belt, Japan. *Geochemical Journal*, 48, 29-49.

社務日誌抄

(令和二年一月から令和三年四月分まで)

令和二年(二〇二〇年)

一月

- 一日 朔日祭・教育勅語渙発百三十周年記念祭。五社秋季例祭。御祓講獅子会議 万力 西角権禰宜出席。
- 大阪市住民投票(大阪市廃止・特別区設置)否決。
- 二日 御文庫閲覧 日本大学教授 長谷川正江氏。ドキュメンタリー映画「紅花の守人」(佐藤広一監督)撮影 小出権禰宜出演。宮司以下参籠。
- 三日 明治祭。
- 四日 BS会議 日下権禰宜出席。
- 五日 壇使 逸見 山下権禰宜 青山社務員奉仕(奈良県橿原市 雲名梯川 俣神社・畝火山口神社)。東粉浜小学校一年生どんぐりひろい。
- 六日 宮中献穀御箱奉納奉告祭(佛金剛組代表取締役社長 多田俊彦氏 奉納)。
- 七日 大阪市立東粉浜小学校創立九十周年記念式典 宮司参列 逸見権禰宜随行。BS団会議 日下 福山 麻植 附柴 西角権禰宜出席。宮司以下参籠。
- 八日 立皇嗣の礼当日祭(中祭)・卯之日祭。装道礼法きもの学院 七五三詣きもの救助隊奉仕。
- 九日 初辰祭。
- 一〇日 市戎大國社月次祭。
- 一一日 清江小学校はぐくみネット事業案山子製作授業 岡権禰宜講師 日下権禰宜助手。墨江小学校一年生どんぐりひろい。
- 一二日 大海神社月次祭。粉浜小学校四年生 社会見学。自衛隊協力大阪連絡協議会 会長 小田原武氏・自衛隊大阪地方協力本部 本部長 濱田博之氏以下参拜。
- 一四日 住吉祭太鼓会会議 麻植権禰宜出席。
- 一五日 十五日祭・七五三祝祭。
- 一六日 國學院大學名誉教授 岡田莊司氏来社。故兵頭常幸氏通夜式 宮司 神武権宮司 高階権禰宜参列。
- 一七日 NHK大阪ニュース「ほっと関西」読売テレビ「情報ライブミヤネ屋」初詣対策報道 岡権禰宜応対。
- 一八日 十八日会 宮司出席(長田神社) 逸見権禰宜随行。NHKニュース「おはよう日本」初詣対策報道。
- 一九日 大阪府神社庁第九支部大麻暦頒布始祭。
- 二〇日 海上交通安全祈願祭。大阪府玩具人形問屋協会連合会・大阪玩具人形住吉講 氈物商常夜燈改修工事竣功奉告祭 同講元 熊本和浩氏以下参列。大阪木材商住吉講定例参拜。
- 二一日 (一財)住吉村常盤会村内安全祈願参拜、同評議員会 小出権禰宜出席。J A大阪府技術部門農作物品評会「住吉大社賞」授与 西野和博氏入賞(ダイコン)。
- 二二日 本殿清掃。特殊神饌調製。宮司以下参籠。
- 二三日 新嘗祭(大祭)。責任役員・御田講・蓬萊講、崇敬者参列。
- 二四日 晴明丘南小学校五年生境内見学。住吉文化事業実行委員会 小出権禰宜応対。
- 二五日 住吉警察署協議会 岡権禰宜出席。皇學館大学共通科目 小出権禰宜講師。
- 二七日 大阪府文化財保護課 神谷悠美氏以下 防災設備等視察。
- 二八日 浅沢社月次祭。大阪市教育委員会事業 文化財建造物見学会 高階権禰宜講師。すみよし反橋能実行委員会 小出権禰宜出席。朝日新聞 氈物商常夜燈報道。
- 二九日 粋心流星華吟詠会創立六十周年記念式典 宮司参列。
- 三〇日 定例清掃。サラヤ(株)消毒液等奉納。雅亮会雅楽後援会 東野颯託 奉仕、宮司観覧。神道青年会理事会(リモート) 宮崎権禰宜出席。定例清掃。職員会議。

一二月

- 一日 朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭。読売テレビ「朝生ワイドす・またん！」・同「かんさい情報ネットten」初詣対策報道 岡権欄 宜応対。
- 二日 卯之日祭・疫病流行鎮静祈願祭。
- 三日 初辰祭。観光庁採択誘客多角化実証事業 住吉大社ツアー催行。大阪府、大阪モデル「赤信号」初点灯 不要不急の外出自粛を要請（一五日迄）。同、医療非常事態宣言を発表。
- 四日 部課長会、総務部長（神武権宮司）社内職員自粛強化指導。
- 五日 四天王寺樟蔭忌雅楽 東野囀託奉仕。
- 六日 帝塚山派文学学会運営委員会（リモート）小出権欄宜出席。
- 八日 モンゴル国在大阪総領事館 総領事 ハグワー・エルデベオチル氏、領事 ダシプレブ・パトビレ氏、モンゴル国文化大使 佐藤紀子氏参拝。神務実習受入 堤小次郎氏（生根神社）。
- 九日 テレビ朝日「羽鳥慎一モーニングショー」・ABCテレビ「キャスト」初詣対策報道 岡権欄宜応対。
- 一〇日 市戎大國社月次祭。大阪労働局 働き方改革関連法に関する説明会「中野 武田権欄宜参加。テレビ大阪「やさしいニュース」初詣対策報道。
- 一二日 大海神社月次祭。霊友会第八支部 支部長 金田壯輔氏以下一一名参拝。
- 一四日 NHKニュース「シブ5時」初詣対策報道。
- 一五日 祭・疫病流行鎮静祈願祭。松本久美子氏 津守好子旧蔵 御紋章入御木盃（宮中退下拝領品）奉納。社報「住吉っさん」第三五号発行。
- 一六日 献詠行事後援依頼（産経新聞大阪本社）小出権欄宜訪問。
- 一八日 埼玉県さいたま市岩槻区仲町住吉神社 眞中昭夫氏参拝。BS会議 日下権欄宜出席。
- 一九日 部課長会、正月奉仕学生打合会 河野権欄宜出席。
- 二〇日 海上交通安全祈願祭。BS大阪第二三団 発団五十周年記念奉祝祭、団委員長 江畑邦彦氏以下五〇名参列。

- 二二日 神務実習受入 村上政俊氏（皇學館大学非常勤講師）。
- 二二日（学浪速学院評議員会 神武権宮司出席）。
- 二二日 住吉大社常任総代就任奉告祭 瀧江輝美氏参列（一月一日付）。

- 二五日 山上有紀氏（旧社家 縫城大夫裔）来社 小出権欄宜応対。
- 二六日 煤払式。自衛消防訓練。本殿清掃。読売新聞 大阪日日新聞 毎日新聞 朝日新聞 奈良新聞 正月関連取材。
- 二七日 読売新聞 毎日新聞 大阪日日新聞 朝日新聞 奈良新聞 正月準備報道。

- 二八日 浅沢社月次祭。吟道光世流志清吟社 住吉大社吟詠会。
- 三〇日 朝日新聞 QRコード おみくじ報道。
- 三一日 師走大祓式。除夜祭。宮司以下神職参籠。年越。関西テレビ報道。

令和三年（二〇二二年）

一月

- 一日 若水の儀。元旦祭。初詣（※正月三日日参拝約六四万人、昨年比二七・三%の出入）。境内出店不可。神賑行事なし。初詣特別分課実施。正月本殿祈禱 預かり祈禱開始。新年神楽各奉仕。QRコード おみくじ運用開始。関西テレビ 中国新唐人TV 読売新聞 毎日新聞 日本経済新聞 大阪日日新聞 産経新聞 朝日新聞 各取材。大阪日日新聞 初詣報道。閉門一八時（五日迄）。

- 二日 琴古流美風会 尺八奉納演奏。
- 三日 元始祭。産経新聞 毎日新聞 読売新聞 大阪日日新聞 初詣各報道。
- 四日 踏歌神事。福餅まき中止。敷布講新年参拝。
- 五日 年末年始関係者御礼 神武権宮司 岡権欄宜回礼。
- 七日 初卯祭・白馬神事・昭天皇陵遙拜式、神馬白雪号 杉谷昌保氏 川上正太郎氏奉仕、神馬講 講元 河村博史氏以下講員参列。新年献詠祭短歌選者会 佐沢邦子氏 安田純生氏 香川ヒサ氏選考。神祇講新年参拝。御神酒講新年参拝。大阪日日新聞 分散参拝報道。

- 八日 初辰祭。四本宮並船玉社防火放水実施（一〇日迄）。
- 九日 市戎大國社宵宮祭（宵えびす）、市戎大國講 講元 北正彰氏・夏越女保存会 会長 長田淳子氏・住吉御崎講 講元 友澤洋一氏・住

吉踊保存後援会 会長 長谷川八重子氏・福娘各五名等各講員奉仕(翌日迄)。

一〇日 市戎大國社例祭(本えびす)、前日同断。

一一日 港住吉神社新年祭。

一二日 若宮八幡宮例祭(湯立神事)、宮原幸夫氏(佐備神社宮司)以下

神楽奉仕。産経新聞 QRコードみくじ報道。大阪日日新聞白馬神事報道。

一三日 御結鎮神事、奉射神事弓十番(住吉大社御結鎮祭大的式) 大阪

府弓道連盟 副会長 小松英治氏以下会員奉仕。宿院頓宮新年祭。

大海神社月次祭。

一四日 四本宮並船玉社防火放水美施(翌日迄)。

政府、緊急事態宣言の対象に大阪府を含む一府県を首都圏一都三県と合せて追加(二月七日迄)。

一五日 十五日祭・新年献詠祭(産経新聞社後援・末廣堂協賛)、天位「長

男は木犀次男は月桂樹長女は嘸梅記念樹育つ」浦木逸子氏、地位「飼葉桶ゴロリ転がしまたねだる牛の花子は知恵者なりき」奥田貞子氏、人位「暮らし方生き方選べる時代へと自粛の日々にも未来は見える」岸本恵美氏。古札焼納式(とんど)。

二〇日 海上交通安全祈願祭。初辰まいり(二の辰)。

二一日 住吉公園事業会議(リモート) 小出権禰宣出席。

二二日 旧芳志会員 岡山青物店 岡山和彦氏に対し感謝状贈呈。

二六日 文化財保護デー自衛消防訓練 職員・自衛消防隊各参加、大阪市

住吉消防署員協力、大阪府教育庁文化財保護課 神谷悠美氏視察。大阪船主会海上安全祈願祭、大阪船主会 副会長 森下貴文氏以下四名参列。すみよし反橋能実行委員会(リモート) 小出権禰宣出席。

二七日 今主社例祭。浅沢社月次祭。

三一日 旧芳志会員 柳生宇太治氏(米屋やぎゅう) に対し感謝状贈呈。故野々上正夫氏(旧職員 元正禰宣) 通夜祭 神武権宮司・万力権禰宣奉仕。定例清掃。職員会議。

一日 朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭。立間社例祭。海士子社例祭。初

辰祭。故野々上正夫氏神葬祭 神武権宮司・万力権禰宣奉仕、宮司会葬。

二日 節分祭・疫病流行鎮静祈願祭、奉納追儺歩射式および厄除振舞善哉は中止。港住吉神社節分祭。

政府、大阪府を含む一府県に対する緊急事態宣言を延長(三月七日迄)。

五日 真言律宗総本山西大寺 管長 第七九世長老 松村隆普氏・同本山 執事 河内良純氏・笹尾正憲氏以下来社参拝 就任挨拶。

七日 後鳥羽院若松御所八百年記念祭(止止呂支比賣命神社合同祭典) 万力小出 河野 日下 進藤権禰宣・世古 中谷神楽女奉仕、宮司・神武権宮司参列、逸見権禰宣随行。

九日 すみよし反橋能実行委員会(リモート) 小出権禰宣出席。

一〇日 市戎大國社月次祭。天王寺楽所雅亮会 副理事長 小野真龍氏来社。宮司以下参籠。

二一日 紀元祭・檀原神宮選擇式。末廣堂斎藤家所蔵書画及郷土資料等 奉納奉告祭、(株)末廣堂 代表取締役社長 斎藤裕昭氏奉納。

二二日 卯之日祭・疫病流行鎮静祈願祭。

二三日 大海神社月次祭。

二五日 十五日祭・疫病流行鎮静祈願祭。南海稻荷社初午祭 宮司奉仕。

一八日 観光庁探択誘客多角化実証事業 住吉大社ツアー催行。

二〇日 海上交通安全祈願祭。大阪狭山市立公民館成人大学講座 小出権禰宣講師。

二二日 吉祥殿ブライダルフェア。

二三日 第十回すみよし反橋能(会長 氏田耕吉氏) 無観客公演「小鍛冶」

収録 小出権禰宣出演(山中能舞台)。宮司以下参籠。

二三日 天長祭。

二八日 浅沢社月次祭。職員辞令・滝沢権禰宣除服出仕を命ず。定例清掃。職員会議。

政府、大阪府を含む六府県の緊急事態宣言を解除。大阪府、大阪府モデル医療非常事態宣言を解除(三月七日迄を繰上げ)。

三月

- 一日 朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭。住吉大社責任役員会・常任総代会書面回議。サノヤスホールディングス(株)代表取締役会長上田孝氏、当社常任総代会委員。シニア自然大学校講座小出権禰宜講師。
- 三日 埴使、岡滝沢権禰宜 青山社務員奉仕(奈良県橿原市 雲名梯川 俣神社・畝火山口神社) 星野神人見学。清風高等学校卒業証書授与式 宮司参列、逸見権禰宜随行。
- 五日 侍者社例祭。
- 六日 BS団会議 西角権禰宜出席。
- 八日 卯之日祭・東日本大震災復興祈願祭。臨時本殿祈禱を継続中のところ本日より殿内奉仕に復旧。
- 九日 初辰祭。
- 一〇日 市戎大國社月次祭。
- 一二日 高野山真言宗河内宗務支所 愛染院住職 野口真龍氏来社。日本経済新聞 旧住吉床菜庵取材。
- 一三日 大海神社月次祭。オリックス野球クラブ(株)・(株)大阪シテイドーム代表取締役 湊通夫氏以下参拝。
- 一五日 十五日祭・疫病流行鎮静祈願祭。
- 一六日 本殿清掃。特殊神饌調製。宮司以下参籠。関西北前船研究交流セミナー神戸 逸見小出権禰宜参加(ホテルオークラ神戸)。
- 一七日 神種頒賜祭。祈年祭・疫病流行鎮静祈願祭、責任役員 太田重彦氏以下総代・御田講 講元 山本英夫氏以下同講員・J A大阪市代表理事組合長 菱井由一氏・同住吉支店長 山本良治氏・同住之江支店長 天野良信子氏・住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏・住吉踊保存後援会会長 長谷川八重子氏等参列。
- 一八日 初詣自主警備総括会議 神武権宮司・岡権禰宜出席。
- 一九日 消防功績顕賞、住吉大社自衛消防隊 高井道弘 受賞(住吉消防署長・住吉自衛消防協議会、三月七日付)。
- 二〇日 皇靈殿遷拜式。海上交通安全祈願祭。招魂社春季例祭。神馬塚宮司・高階権禰宜参拝。千度講 安立連合町会・安立四丁目北町会・安立一丁目中町会・東粉浜連合町会・旧中在家東之町参拝。

- 二一日 皇學館大学元理事長 松尾大社名誉宮司 故佐古一 溯大人お別れの会 宮司参列(ホテルグランヴィア京都) 高階権禰宜随行。BS会議 日下 西角権禰宜出席。
- 二二日 献詠俳句選者会 古賀しづれ氏 森田純一郎氏 小杉伸一路氏 楠本義雄氏 選考。住吉警察署長 宮本賢一氏 離任挨拶来社。
- 二四日 新年度新規採用神職研修(三一日迄)。大阪日日新聞取材。
- 二六日 新年度新規採用神楽女研修(三一日迄)。(※)浪速学院理事評議委員会 神武権宮司出席。神社庁第九支部役員会 日下 福山権禰宜 出席。
- 二七日 アサヒ飲料(株)「三ツ矢の日」参拝。
- 二八日 浅沢社月次祭。池田市亀之森住吉神社 宮司 名村啓史氏来社。
- 二九日 大阪府神社庁辞令交付式 川畑 逸見 岡 万力権禰宜・星野 鈴木 奥野 神人 出席。
- 三一日 禊行事。住吉警察署署長 水代智氏以下着任挨拶来社。定例清掃。辞令交付。職員会議。

四月

- 一日 朔日祭・卯之日祭・疫病流行鎮静祈願祭。神社本庁辞令(同社内辞令)・住吉大社権禰宜 万力一雅・逸見忠志・岡康史・川畑勝久、住吉大社権禰宜に各任ずる。星野克輔・鈴木康太・奥野就貴、住吉大社権禰宜に各任ずる。職員辞令・新採用 杉原隆也、神人に任ずる。同 橋本衣織・松原未咲・武田咲百合・元村葉奈、神楽女見習に各任ずる。ヨドコウ桜スタジアム(長居球技場) 竣工式、神武権宮司・逸見権禰宜・星野権禰宜奉仕。大阪ユニセフ協会へ外貨硬貨寄付。政府、大阪府を含む一府二県に対し蔓延防止等重点措置の適用を発表(五日より一ヶ月間)。
- 二日 初辰祭。観光庁採択誘客多角化実証事業 住吉大社ツアー 催行。
- 三日 松苗神事(岸の姫松講後援)・神武天皇陵遷拜式、松苗献木 岩根正尚氏・岸の姫松講 講元 大賀信幸氏以下講員二名参列。天位「守りたき豊かな水都苗木植う」平敦子氏、地位「万代に海路守る杜風光る」松本美那子氏、人位「春光の一楸未来図を描く」岩水ひとみ氏。聖徳宗総本山 法隆寺 聖徳太子千四百年聖霊会法

華勝曼講 神武権宮司参列、高階 星野権禰宜随行。
四日 宿院頓宮桜祭。

六日 正印殿祭、「楠公さん」大河ドラマ誘致協議会 高石市市長 阪口 伸六氏・河内長野市市長 島田智明氏（公財）住吉名勝保存会 理事長 高野伸生氏 参列。産経新聞取材。五社春季例祭。

七日 住吉消防署 署長 藤岡涉氏以下来社。草薙会近畿支部役員会 万 力禰宜・附柴権禰宜出席。

九日 種貸社例祭。
大阪府、医療非常事態宣言を发出（八日より）。

一〇日 港住吉神社楠玉稲荷社例祭。市戎大國社月次祭。
三日 大海神社月次祭。

一四日 鉾社例祭。
一五日 十五日祭・疫病流行鎮静祈願祭。おいとほし社春季例祭。神 稜講定例参拝。新入社員安全衛生教育講習会 星野 鈴木 奥野権 禰宜・杉原神人受講（吉祥殿）。

一八日 BS大阪 二三団上進式並発団五十周年記念植樹式。

二〇日 海上交通安全祈願祭。島津忠久公誕生記念祭。

二二日 住吉税務署 署長 西野佳代子氏以下来社。

二二日 職員定期健康診断。

二三日 御田耕起 御田講員奉仕。

政府、緊急事態宣言を再々发出（二五日より五月十一日迄）。
二五日 緊急事態宣言を受けて本日より閉門時刻を変更（一六時三〇 分）。

二八日 浅沢社月次祭。宮司以下参籠。

二九日 昭和祭・疫病流行鎮静祈願祭。

三〇日 定例清掃。職員会議。

住吉大社自衛消防隊

「消防功績顕賞」受賞

住吉大社では自衛消防隊を結成し、年 二回の消防訓練をはじめ防火消防活動を行 なっています。今回、住吉大社自衛消防 隊・高井道弘（当社宮司）に対して「消防 功績顕賞」（3月7日付、住吉消防署長・ 住吉自衛消防協議会）が贈られました。同 月19日、大阪市住吉消防署長の出水静雄様 （肩書当時）が来社され、高井宮司へ直接 に授与いただきました。



発団五十周年記念奉告祭

令和2年12月20日

大阪第123団は、昭和45年（1970）、昭和天皇・皇后両陛下の住吉大社御親拝に際して、その榮譽を永く記念するために、同年12月23日に住吉大社のボーイスカウトとして結成されました。以来、住吉大社を育成母体とし、地域住民の皆様のご支援によって半世紀の間、青少年の育成活動を維持継承して参りました。

本来ならば当団の発足50周年を祝して、様々な活動や事業を進めるところでしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、諸の活動を自粛・制限いたしました。ボーイスカウトの基本理念である「そなえよつねに」を念頭に、今後の活動再開に向けて準備を進めているところです。

緊急事態宣言や自粛要請等によって、人と人との触れ合いが制限され、我々の活動も大きな影響を受けております。新しい生活様式による活動を模索すべく、あるいは既成概念を捨て、これからの活動方法を見直してゆきたいと思えます。

今回、50周年という大きな節目を迎えることが出来た慶びとともに、関係各位へは只々感謝を申し上げます。今後とも皆様方の温かいご支援ご協力をなにとぞ宜しくお願い申し上げます。

日本ボーイスカウト大阪第123団
団委員長 江畑 邦彦



ご崇敬の皆様へ大切なお願い

現在、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡散が未だ予断を許さない状況にあり、ご崇敬の皆様の安全を第一に考えますと、諸行事等を開催すべきでないとの判断に至りました。

誠に遺憾ながら、令和3年の住吉祭の神賑行事を中止させていただきます。尚、関係神事は神職にて厳修に執行いたす予定でございます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

住吉大社ではご崇敬の皆様に安心してご参拝できる環境整備に努めてまいります。

- ・各所にアルコール消毒液を準備しております。
- ・マスクを着用し、間隔を空けて参拝していただくようお願いいたします。
- ・体調がすぐれない場合や発熱のある方は、ご来場をおひかえください。
- ・祈祷の受付は午前9時〜午後4時迄、但し昇殿人数を制限いたします。

これからの状況を踏まえ、随時対応策を検討・導入して参ります。

住吉大社社務所

住吉大社 SNS



HP



Instagram



Facebook

令和三年（二〇二一） 下半年の祭事暦

7月7日（水）	10時00分	星宮例祭	末社星宮
7月21日（水）	10時00分	斯主社例祭	末社斯主社
7月22日（祝）	10時00分	汐汲行事	大阪湾
7月30日（金）	17時00分	神輿洗神事	第一本宮
		宵宮祭	第一本宮
		遷霊祭	第一本宮
7月31日（土）	10時00分	例大祭（大祭）	第一本宮
	17時00分	夏越祓神事	五月殿前
8月1日（日）	10時00分	朔日祭・発輿祭	第一本宮
	11時30分	頓宮祭	宿院頓宮
	12時00分	荒和大祓神事	飯匙堀
	13時00分	遷輿祭	第一本宮
8月7日（土）	10時00分	薄墨社例祭	末社薄墨社
8月1日（水）	10時00分	楯社例祭	末社楯社
9月9日（木）	10時00分	志賀神社例祭	摂社志賀神社
9月19日（日）	10時00分	児安社例祭	末社児安社
9月21日（火）	18時00分	観月祭	第一本宮
9月23日（祝）	10時00分	皇霊殿遷拜式	神楽殿
10月9日（土）	11時00分	招魂社秋季例祭	末社招魂社
10月13日（水）	10時00分	大蔵社例祭	末社大蔵社
10月15日（金）	11時00分	大海神社例祭	摂社大海神社
10月16日（土）	10時00分	おいとしぼし社秋季例祭	おいとしぼし社
10月17日（日）	10時00分	龍社例祭	末社龍社
		御田刈祭・神宮神嘗祭遷拜式	五月殿
		宝之市神事	第一本宮
10月19日（火）	10時00分	后土社例祭	末社后土社
10月21日（木）	10時00分	船玉神社例祭	摂社船玉神社
11月3日（祝）	9時00分	明治祭（中祭）	第一本宮
11月8日（月）	10時00分	五社秋季例祭	末社五社
11月15日（月）	10時00分	七五三祝祭	第一本宮
11月23日（祝）	10時00分	新嘗祭（大祭）	第一本宮
12月26日（日）	15時00分	煤払式	四本宮
12月31日（金）	17時00分	大祓式	境内
		除夜祭	第一本宮

※祭礼の時間や神賑行事・奉納行事は変更する可能性があります。



元祖 さつま焼（登録商標）

さつま焼はその昔
住吉の物産であったさつま芋を
形どったなにわの味、
昔からの銘菓であります。
十勝小豆を精製した
淡泊な味のこしあんを、
秘伝の皮で包み、
心を込めて、一本一本竹串に刺して
焼き上げております。
幾星霜の老舗の味を、ご賞味ください。
摂津一之宮 住吉大社御用達御神饌調達処
御菓子司 株式会社 末廣堂

本店 大阪市住吉区東粉浜三丁目一ノ二一四
TEL 06(6677)4428
06(6677)8130
FAX 06(6677)3019

第36号の表紙 明治時代の反橋（明治36年『近畿名所』より）
原題「堺住吉神社反橋 The Sorinashi at Sumiyoshi Shrine, near Osaka」
は村田伝七（住江織物創業者）奉納。

日本の伝統
花嫁の正統。

 住吉大社吉祥殿

Tel 06-6675-3591 fax 06-6675-3311

URL <http://www.sumiyoshitaisha.jp>

〒558-0045 大阪市住吉区住吉 2-9-89

住吉大社吉祥殿まで (水曜定休日)

令和3年(2021)6月15日発行(年2回発行)

発行人 高井道弘

発行

住吉大社

住所

大阪市住吉区住吉2丁目9番89号

Te l

06・6672・0753

印刷 真生印刷株式会社